

## 小野梓著「条約改正論附録」

吉井蒼生夫

## 解説

(1)ここに復刻・紹介する資料は、小野梓（一八五二—一八八六）の「条約改正論附録」（「外交論（附録一）」と「要改条目類從（附録二）」からなる。いずれも「東洋館書店」の原稿用紙を使用。ただし筆跡から他筆と推定される。以下「附録」と略称する）である。

小野は、「日記」（「留客斎日記」）によると、一八八四年（明治一七）五月一三日から三〇日にかけて「条約改正論」を執筆した。この論文は、当初「非内地雑居論」として起草され、一八日に「条約改正論」に改められた（同論文は、「井上馨文書」中のものを底本として、早稲田大学大学史編集所編『小野梓全集』第三巻に収録されている。なお同巻の「解題」（兼近輝雄氏執筆）を参照。「弘く之を天下に訴へ、以て国家が将に汚辱の中に陥らんとするを救はん」（「条約改正論」〔断片〕）として執筆したこの「条約改正論」を出版するにあたって（実際には出版の許可が得られず、彼の生前には日の目をみなかった）、小野は、自己のいなく外交政略の基本的な考え方を一層明瞭にするために、また日本が欧米諸国と締結した条約の中から改正を要する条文を摘出して読者の参看に供するために、「附録」として二つの資料を付する意図を

もっていた。すなわち、小野が出版を計画した「条約改正論」は、本論（「条約改正論」）と附録（「条約改正論附録」）とによって構成されていたのである。かかる事実、このたび新たに発見された「附録」によってはじめて明らかになったことであり、かつまた、本資料は、小野の条約改正論を理解するうえで貴重なものであるので、ここに復刻・紹介する次第である。

(2)「外交論（附録二）」は、井上馨外務卿が条約改正予議会で内地開放宣言を発表し、また壬午事変が起った一八八二年（明治一五）に書かれ、同年一〇月一四日に明治会堂において公演されたものである（同論文は、小野の自編刊本『東洋論策』に所収のものを底本として、前記『小野梓全集』第四巻に収録されている。なお同巻の「解題」（間宮国夫氏執筆）を参照）。この論文で小野は、まず西洋に対する外交政略の要点として、条約改正は国別談判によるべきこと、法権より税権の回復を急ぐべきこと、内地雑居は治外法権撤廃後にすべきことの三点をあげ、他方、東洋に対する外交政略として大切なことは、「支那ニ与フルニ疑ヲ解クノ便ヲ以テセヨ朝鮮ニ与フルニ怨ヲ散スルノ便ヲ以テセヨ西洋諸国ヲシテ東洋ノ外交ニ干渉セシムル勿レ是ナリ」と強調した。小野は、「条約改正論」を出版するにあたって、数多くの外交関係論策の中から、自己の外交政略の基本的な考え方を最も端的に示すものとして本論文を附録に選んだわけである。なおこの「附録」に収録の「外交論」は、『小野梓全集』に収録されているものなど異版と内容においてほとんど違いはないが、「附言」（明治十七年五月盡日演者識）が付されているのをはじめ、文章表現や字句に若干の違いがみられる。

「要改条目類従（附録二）」は、先述のように、小野が、「条約改正論」の読者の便宜のために、日本が欧米諸国と締結した条約の中から改正を要する条文を摘出し編集したものである。この資料は、これまでその存否が不明であったもので、ここにはじめて紹介される資料である。小野の「日記」によると、この「要改条目類従」は、一八八四年（明

治一七) 六月一日と二日の両日で書かれ、その後「条約改正論」「外交論」とともに校正の手がほどこされている。ところが小野は、「条約改正論」および「外交論(附録一)」「要改条目類從(附録二)」のいずれも執筆の日付を「明治十七年五月盡日」にしている。「日記」によると、この日(五月盡日)小野は、稿本を添付して再度稟請するようにとの理由で、東京府庁から「条約改正論」の版權の稟請書をかえされた(すなわち出版の許可が得られなかった)。かかる措置に対する憤りの気持ちと出版への強い意志を示すために、小野は「条約改正論」と「附録」の執筆の日付を「五月盡日」にしたものと思われる。

(3)ところで本資料は、香川大学初代学長神原甚造氏が蒐集されたもので、現在、香川大学附属図書館所蔵の「神原文庫」に收藏されている。本資料には、神原氏が蒐集した際に執筆したものと思われる本資料の意義・由来などを記した付箋が貼られている。以下に参考のためこれを掲げておくことにする。

付箋①(表紙の裏に貼附)

条約改正論附録

著者小野梓の自筆原稿本なり 著者ノ署名  
第廿集表ニ在

条約改正論ノ本論ノ部ハ明治廿年高田早苗編纂ノ東洋遺稿に収めて刊行せられたるが此附録ハ本論と同時に脱稿せしものなるル編纂に洩れ上梓を見ずして今日に至れるものなり、思ふに著者歿後疾く散逸し遺稿編纂者此附録あることを知らざりしならん、此附録中ノ外交論ハ条約改正論発生史上極めて貴重ノ文献なるのみならず小野梓の自筆稿本ノ今に伝はるものは極めて稀なれば本書ハ珍重するの値あるものといふべし

「自筆原稿本なり」とあるが、先述のように筆跡から判断して他筆と推定される。書生に淨写させたものか。

——吉井註

付箋②（第一葉表に貼附）

此演説の公演せられし明治会堂ハ京橋三丁目ニ在りて聴衆三千人を容れたりといふ

〔「日記」によると、「聴者無慮二千余人、又近日之盛会也」とある。——吉井註〕

付箋③（同右）

此外交論ハ著者が明治十五年十月十四日明治会堂ニ於て公演したる演説にして条約改正ノ必要を論じたるものなり  
演説と志てハ条約改正論ノ第一声也著書としても国内に於ける同論文献の先駆也 条約改正論ノ代表的ノものとして明治文化全集第六卷に収むるものハ就れも之れよりは五六年後のものなり

付箋④（第一葉裏に貼付）

此ノ外交論ハ著者が明治十五年十月公演したる演説にして実に条約改正論の先駆なり

先是馬場辰猪の日英条約論（英文） ロンドンに於て上梓せられしも其翻訳刊行ハ長く許されず明治廿二年（二三年の誤——吉井註）に至りて漸く其事あり

田口卯吉の条約改正論ハ明治廿二年九月ノ演説速記を同年十月刊行せしもの

島田三郎ノ条約改正論も明治廿二年九月横浜毎日新聞連載ノものを同年十一月単行本として上梓せしもの

（以上三者ハ条約改正論ノ代表的のものとして明治文化全集六卷ニ収めしもの也）

〈付記〉 本資料の調査に協力して下さった香川大学助教授栗原真人氏ならびに本資料の閲覧・複写にあたって御高配をたまわった香川大学附属図書館に対し、ここに記して感謝の意を表する次第である。

条約改正論附録

外交論（附録二）

○

附言

外交論ハ明治十五年十月十四日明治合堂ニ在テ余カ公演セシ者ニ係ル当時我カ政府ハ訂約諸国ノ全權公使ヲ外務省ニ請シ条約改正ノ予審會議ヲ開キ頗ル意ヲ条約改正ニ用ユ又時宛モ朝鮮京城ノ変乱アリ花房公使若干ノ償金ヲ得之ヲ本邦ニ齎ラシ帰ルノ秋ニ際セリ故ニ篇中ノ議論多ク玆ニ渉ル看者当時ノ大勢ヲ記シ而シテ后チ本論ヲ読マハ其合得自カラ易カラム

明治十七年五月盡日 演者 識

外交論

滿堂來聴ノ諸君ハ土兒格今日ノ狀況ヲ觀察シテ如何ノ感想ヲ發起スル乎諸君ハ必然了知スルナラン今ノ時ニ当テ土兒格帝國ノ政治ハ毎ニ欧州強國ノ干涉ヲ受ケ殆ント其自主ヲ保ツヲ得ス半月ノ國旗其光朦朧トシテ輝カス撤担ノ尊稱其威微弱ニシテ振ハス土兒格ハ是レ衰微國ノ異名ナルカ如キコトヲ顧フニ是レ何等ノ由來アリテ然ルモノ乎諸君ハ如何カ是レ其原因ナリト思維スル乎教育其善ヲ失スルカ故乎内治其序ヲ誤マルカ故乎國民遊怠ノ致ス所ナル乎君主抑圧ノ來ス所ナル乎顧フニ是ノ數多ノ者能ク土兒格帝國ノ威力ヲ損スルニ足ルナラン然レトモ半月ノ國旗其光朦朧トシテ輝

カス撒担ノ尊称其威微弱ニシテ振ハス「オットマン」ノ帝国將ニ亡ヒントスルモノハ唯リ教育ノ善ヲ尽サ、ルニ因ルノミニアラス又唯リ内治ノ其序ヲ誤マルニ因ルノミニアラス又唯リ国民ノ游怠ナルニ因ルノミニアラス又唯リ君主ノ抑圧ナルニ因ルノミニアラス蓋シ別ニ其一大原因アリテ夫ノ朦朧ヲ致シ夫ノ微弱ヲ来スモノナルヲ知ル抑モ是レ何等ノ事ナル乎余ハ欧州外交ノ歴史ヲ讀ミ東邦論ノ条ニ至ル毎ニ未タ曾テ土児格人民ノ為メニ当時姑息不能ノ政事家アリ苟且儉安ノ外交ヲ為シソノ禍害ヲ後世子孫ニ貽シタルヲ憤ラスンハアラス以為ラク土児格今日ノ衰弱ヲ致シ到底之ヲ救フヲ得ス其外国ノ侮辱ヲ受ケ究竟之ヲ雪クヲ得サルモノハ多クハ是ノ姑息不能ノ政事家アリテ一時ノ虛安ヲ苟儉シ以テ欧州強國ト杜撰ノ交際ヲ為セシニ職由スト

抑モ国政ノ弊害タルソノ種類甚タ多フシ然レトモ其害ノ久シキニ流レテ直ニ之ヲ療医スルヲ得ス其國ニシテ一タヒ其害ヲ蒙ムレハ智者才人アリト雖モ殆ント其後ヲ善クスルヲ難ンスルモノハ外交ノ宜キヲ誤マリ財理ノ政ヲ失シタルヨリ甚タシキハ莫シ夫ノ集会条例ノ過刻ニシテ社会交通ノ自由ヲ妨碍シ夫ノ出版法規ノ過嚴ニシテ人民言論ノ自由ヲ抑圧スルカ如キ其国家人生ニ弊害アル固ヨリ巨大ナリ然レトモ其害タル幸ニシテ速ニ之ヲ改正スルヲ得ルノ望ミアリ其後ヲ善クスルノ術モ亦タ必ラスシモ智者才人ヲ待タサルカ如シ諸君試ミニ三世那烈翁ノ姦雄ノ黠智ヲ以テ自家ノ暴威ヲ逞フセンコトヲ欲シ夫ノ集会条例ヲ過嚴ニシ以テ仏蘭西国民交通ノ自由ヲ妨害シ又出版条例ヲ過刻ニシ以テ仏蘭西国民言論ノ自由ヲ束縛セシヲ看ヨ当時仏國四千万人ノ自主ハ那破烈翁一人ノ蹂躪スル所ト為リ那破烈翁其人ノ如キハ自家威力ノ強大ナルヲ誇リ常ニ云ヘラク落々タル仏國方百万里ノ山河滔々タル「コール」四千万ノ遺族ハ是レ我力意ノマ、ノミ我レ夫ノ口ヲ箝テ夫ノ筆ヲ縛ル彼レ豎子又言フヲ得スト其仏蘭西ノ社会ヲ害シ其仏人ノ生育ヲ損スル誠ニ巨大ナルヲ知ル然レトモ那破烈翁ノ字魯士亜ト戦ヒ其軍利アラス將軍馬韋韓傷ヲ負ヒ「セダン」守ラス羅意降ヲ字帝ニ納レ仏人其政府ヲ一變セルヤ那破烈翁ノ多年辛苦經營シテ纔ニ創設シ得タル集会条例ノ如キ出版条例ノ如キ皆ナ一



片廃止ノ布令アルニ遇ヒ忽焉トシテソノ跡ヲ絶チ昨日絨箱ヲ蒙ムルロハ今日開ケテ謬々天下ノ得失ヲ論シ昨日束縛ヲ受クルノ筆ハ今日解ケテ促々人生ノ利害ヲ載セ交通ノ自由言論ノ自主朝夕ヲ待タスシテ仏蘭方百万里ノ間ニ復セリ其之ヲ改正スルノ難カラサル誠ニ此ノ如シ然レトモ外交ノ弊ニ至テハ則チ然ラス其毒ヤ政府ノ變遷内閣ノ更迭ニ依テ直ニ之ヲ療医スルヲ得ス其国ニシテ一タヒ其弊ヲ蒙ムレハ智者才人アリト雖モ殆ント其後ヲ善クスルヲ得ス終ニ其民ヲ疲ラシ其国ヲ亡ボスニ至ラン蓋シ外交ノ政タル元ト對敵ノ国アリテ終始其事ニ関シ到処其認諾ヲ承ケサルヲ得ス是以テ其之ヲ改正スル直ニ自国ノ便利ノミニコレ依ルヲ得ス随テ其改良ヲ遲回ナラシメ甚タシキハ之ヲ為スヲ得サルニ至リ其弊ヤ延テ内治ノ改良ヲ妨碍シ遂ニ一国ノ元氣ヲ損スルニ至ルヘケレハナリ然ルヲ土児格當時ノ政事家ノ感テ之ヲ曉ラス其不能ノ才ヲ以テシテ姑息ノ外交ヲ行ヒ一時ノ虛安ヲ苟偷シテ万世ノ大計ヲ思ハス從ラニ杜撰ノ条約ヲ結テ禍害ヲ後世ニ遺シ以テ今日ノ大弊ヲ致セリ豈ニ又切痛悲憤ノ至リナラスヤ

顧ミテ土児格ノ歴史ヲ看レハ其外交ノ宜シキヲ失シ自カラ大計ヲ誤マリシモノ一ニシテ足ラス其狀ノ吊スヘキモノ誠ニ多フシ然レトモ外交艱難ノ端緒ヲ開キ国旗ノ朦朧国權ノ汚辱ヲシテ今日ノ極ニ至ラシメ到底之ヲ正スヲ得サルモノハ實ニ土児格ノ欧州強国共同ノ干渉ヲ許シ自カラ国權ヲ辱シメシニ因ル諸君ノ既ニ明知スルカ如ク土児格ハ元ト欧亜ノ兩州ニ跨リ東欧ニ雄飛セシ強大ノ邦国ニシテ夫ノ東羅馬ヲ亡ホシ君斯但堡ヲ占メ夫ノ維也納ヲ囲テ城下ノ盟ヲナサシメシ等其勢甚タ大ナリ然ルニ彼レ甚タ外交ノ略ヲ慎マス今ヲ去ル百八十五年即チ我東山天皇元祿十一年ノ時ニ当テ英蘭二国ノ共同シテ魯士ノ講和ニ干渉スルヲ許セリ是レ欧州強国ノ其共同ノ力ヲ以テ土児格ノ外交ニ関セシ濫觴ニシテ爾後数々其慣例ヲ続キ文化九年ノ頃ニ及ンテ又タ仏蘭西奧地利共同ノ力ヲ得テ魯細亜ト講和セシヨリ以来欧州強国ノ土児格ノ外交ニ関スル一層ノ甚シキヲ加致シ東邦ノ問議是ニ於テ乎起レリ文政十年ノ頃ニ至テ英吉利仏蘭西魯細亜ノ共同シテ希臘ヲ助ケ土児格ノ征討ヲ禁セシカ如キ又近時ニ及ンテ伯林ノ大會議ヲ開キ「セルビヤ」ノ独立ヲ強迫セ

シカ如キ其土児格帝国ノ国権ヲ辱シメ半月ノ国旗ヲ汚ス誠ニ一ニシテ足ラサルナリ顧フニ「オットマン」帝国ノ大土  
児格国民ノ多キ必ラス其汚辱ヲ憤リ其恢復ヲ図ルモノアラシ然レモ之ヲ其始メニ慎マス一時ノ苟安ヲ偷テ一タヒ欧州  
強国共同ノ干涉ヲ許シ之ヲ其外交ニ関セシメタルヲ以テ大勢一タヒ去テ又回ラスヘカラス埃及ノ乱アルヤ英仏忽チ其  
兵艦ヲ蟻ヒ希土ノ境界ヲ争フヤ魯墺俄カニ欧州ノ大会議ヲ促ス等土児格ノ死命一ニ欧州強国共同ノ手ニ皈シ又タ如何  
トモ為ス能ハス其運命ノ危キ累卵モ亦タ啗ナラサルナリ宜ナル哉半月ノ国旗其光朦朧ニシテ土児格ノ国権其威微弱ナ  
ルヤ顧フニ若シ当時土児格ノ政事家ヲシテ確然守ル所ヲ知リ大ニ万世ノ利害ヲ計ルアリ其始メニ当テ欧州強国ノ干涉  
ヲ受ケス魯細亜ハ魯細亜墺地利ハ墺地利英吉利ハ英吉利仏蘭西ハ仏蘭西ト各自異別ニ其交際ヲ結ヒ彼此共同ノ關係ヲ  
拒絶スルアラシメハ東邦ノ問議起ルニ由ナク土児格ノ汚辱蓋シ今日ノ甚シキヲ致サルヘシ然ルヲ夫ノ徒之ヲ察セス杜  
撰ノ外交ヲ為シ一時ノ苟安ヲ偷ミ万世ノ大計ヲ誤マリ以テ今日回ラスヘカラサルノ大弊ヲ来スニ至ル天下ノ人誰レカ  
之ヲ切痛悲憤セサランヤ

上来ハ是レ余カ土児格国民ノ為ニ其不幸ナルヲ吊ヒ以テ當時外交家ノ其政略ヲ失シ禍害ヲ後世子孫ニ遺シタルヲ責ム  
ルモノナリ而シテ余ノ之ヲ吊慰シテ切痛悲憤ノ声ヲ発シ自カラ禁スルコト能ハサルモノハ抑モ何ソヤ土児格ハ是レ土  
児格人ノ土児格ナルノミ余レ今マ日本帝国ノ良民タルヲ辱フス殆ント土児格ノ盛衰浮沈ト相關セサルカ如シ然ルヲ今  
マ猶ホ切痛悲憤シ自カラ禁スルコト能ハサルモノハ甚タ故アルナリ余ハ年壯少シク俠氣ヲ帶フ人ノ急アレハ常ニ憐ミ  
易シ今土児格ノ急ヲ憐レム蓋シ之ニ因ル乎否ナ々々決シテ然ルニアラス人ノ急ヲ見テ憐レムハ余ノ性ナリ然レトモ今  
日土児格ノ艱難ヲ見テ悲憤ノ心ヲ起シ之ヲ慷慨スル久シキモノハ敢テ任俠人ヲ憐ムノ意ニ出ツルニアラス蓋シ別ニ大  
ニ感スル所アルナリ満堂來聴ノ諸君否ナ大日本帝国ノ臣民ハ我カ外交ノ有様ヲ見テ如何シノ感想ヲ抱ケル乎諸君ハ必  
ラス外交ノ近史ヲ記スルナラン當時幕府ハ如何ナル条約ヲ結ヘルカ其杜撰ニシテ国権ノ汚辱ヲ顧ミサルカ如キ諸君ノ



既ニ憤リ既ニ怒ル所ニアラスヤ然レトモ余ヲ以テ之ヲ言ヘハ幕府ノ一時条約ノ条目ヲ誤マリ国權ヲ辱シメタルハ當時ノ事情ニ照シ猶ホ恕スヘキ所アリ但タ安政初年ノ条約ニ及ンテ英仏米蘭共同ノ条約ヲ結ヒ之ヲ改正スルノ便利ヲ妨クルモノニ至テハ余レ勢ヒ其罪ヲ鳴ラサ、ルヲ得ス是レ實ニ土兒格ノ覆轍ニ陥リタルモノニシテ苟モ之ヲ繼續シテ之ヲ改ムルヲ知ラサレハ其極ヤ旭日ノ旗章ヲシテ半月国旗ノ運命ヲ分タシメ日本ヲシテ土兒格ノ相統人タラシムルノ不祥アルモ未タ知ルヘカラス余ハ日本人ノ国民ナリ旭日ノ旗章ヲ輝カサント欲スルモノナリ日本ノ国權ヲ張ラント欲スルモノナリ焉ソ能ク之ヲ見テ自カラ慷慨悲憤シ私ニ期スル所ナカラサルヘケンヤ是レ實ニ余カ土兒格ノ外交史ヲ講シ忽チ悲憤ノ情ヲ発シ自カラ禁スルコト能ハス切痛之ヲ喃々スル所以ナリ吁々幕府ヤ既ニ欧米共同ノ条約ヲ結ヒ以テ外交ノ略ヲ過テリ然レトモ既往ノ事ハ去レリ之ヲ追フモ益ナシ況ンヤ幕府既ニ亡ヒテ其實ニ任スルモノアラス余ハ今甚タ其罪ヲ責メサルヘシ然レトモ此過誤ノ政策ヲ繼續シテ之ヲ改メス之ヲ再三三四スルニ至ラハ天下ノ大勢一去シテ又回スヘカラス到处土兒格ノ不祥ヲ避ケント欲スルモ遂ニ得ヘカラスルニ至ルヘシ外交ノ局面ニ当ルモノハ深ク其慎ヲ加ヘ勉メテ各国共同ノ訂約ヲ改メ以テ各自異別ノ条約ト為シ予メ其禍源ヲ防カサルヘカラス又饒トヒ土兒格ノ覆轍ニ陥ラシメサルモ各国ヲ共同シテソノ条約ノ改正ニ從事セハ或ハ善良ノ改正ヲ為スヲ得サルノ恐レアリ願フニ各国ノ間各々其特種ノ利害アラシニ而シテ英國ハ自カラ英國特種ノ利害アリ仏蘭西ハ仏蘭西特種ノ利害アリ普魯士ハ普魯士亞特種ノ利害アリ魯細亜ハ魯細亜特種ノ利害アル等彼此互ニ相同シカラス惟フニ各国ヲ別異シテ各自ニ其条約ヲ改正セハ特種利害特種利害ヲ以テ相償フヲ得我國ニ於テ大ナル弊害ヲ受クルコトナカルヘシ然レトモ若シ各国ヲ共同シテ其改正ニ從事セハ各国特種ノ利害ハ相集テ一団ヲ為シ我カ日本ハ一国ヲ以テソノ積弊ヲ受ケサルヲ得ス而シテ我カ求ムル所甲ニ害ナキモ乙ニ不利アリテ全然其望ヲ全フスルヲ得ス其極ヤ甲ニ譲リ乙ニ譲リ丙丁ニ譲リ失フ所既ニ多ク而シテ甲ノ許サント欲スル所乙之ヲ許スヲ肯ンセス我レ之ヲ甲ニ失ヒ又之ヲ乙ニ失ヒ又之ヲ丙丁ニ失ヒ我カ得ル所又タ

少ナシ我カ失フ所既ニ多クシテ我カ得ル所又タ少ナシ是レ果シテ善良ノ改正ト云フヘキ乎余ハ寧ロ一挙シテ両失スルモノト称スルモ之ヲ称シテ善良ノ改正ナリト云フヲ得サルナリ惟フニ皆是レ各国ト共同シテ条約ヲ結フノ流弊ニシテ各国異別ノ条約ニ出テサルノ罪ナラン是ヲ以テ余ハ切ニ望ム我カ政府ハ今ノ時ニ当テ勉メテ各国異別ノ条約ヲ結ヒ彼此ノ間我邦ノ所得ヲ多カラシメ以テ善良ノ改正タルヲ得セシメンコトヲ余ノ見ル所実ニ此ノ如シ然ルニ道路伝フル所ニ抛レハ政府ハ今現ニ各国ノ代理人ヲ集会シテ条約改正ノ事ヲ商議スト惟フニ是レ条約ノ改正ニ利便アルノ政略ナル乎或ハ各国共同ノ訂約ヲ継続スルモノニアラサル乎余今私ニ疑ナキ能ハス聞クカ如シハ米州聯邦ノ如キ伊太利ノ如キハ共ニ各国ノ共同ヲ待タスシテ其条約ヲ改正センコトヲ諾セリト果シテ然ラハ政府ハ何故ニ此ノ各自別異ノ条約ヲ創メサル乎余ハ当局者ニ向テ問ハントス何故ニ此利便アル改正ノ方案ヲ捨テ、夫ノ利便ナキ各国共同ノ商議ヲ起シ共同ノ訂約ヲ再ヒセント欲スルノ傾アル乎ト惟フニ当局者ハ天下ノ衝ニ立テ一國ノ大事ヲ謀ルモノナレハ必ス一時苟偷ノ政略ニ安シテ禍害ヲ後世ニ遺スヲ顧ミサルモノニアラサルヘシ若シ夫レ然ラハ当局者ノ各国ノ代理人ヲ請致シテ事ニ条約改正ノ商議ニ從フモノハ蓋シ一種陰微ノ妙機アリテ大ニ我帝國ヲ利スルモノアルニ因ルナラン唯タ余ヤ未タ其妙機ヲ見ルコト能ハス故ニ私ニ疑懼ノ心ヲ抱キ自カラ安スルコト能ハサルナリ抑モ堅氷ハ霜ヲ履テ来リ禍ノ起ルハ起ルノ日ニ起ルニアラスシテ遠ク其前ニ在リ惟フニ各国共同ノ訂約ヲ為ス今直ニ其禍ヲ致サス然レトモ之ヲ一タヒシ之ヲ再タヒシ之ヲ三タヒシ之ヲ四五タヒスルニ至テハ外交ノ事毎ニ共同ノ干涉ヲ受ケソノ極ヤ堅氷ヲ見ルニ至ルヘシ土児格ノ鑑誠ニ遠カラサルナリ

且ツ当局者ハ如何シノ順序ヲ以テ此条約ヲ改正セント欲スル乎諸君ノ熟知スルカ如ク条約ノ改正スヘキモノニツアリ曰ク治外ノ法權ヲ撤セシム一ナリ曰ク収税ノ權ヲ回復ス二ナリ而シテ甲ハ我カ帝國ノ体面ヲ全フスル為メ甚タ必須ニシテ乙ハ我國民ノ実益ヲ進ムルカ為メ最モ切用ナリ惟フニ我邦ヲシテ二者ヲ合セテ共ニ之ヲ恢復スルヲ得セシメハ吾

人素ヨリ其輕重ヲ問フヲ須キス唯タ二者ニシテ共ニ之ヲ改正スルヲ得ス其一ヲ扱フヘキノ時ニ及ハハ吾人ハ甲ヲ扱フヘキ乎將タ乙ヲ扱フヘキ乎誠ニ滿堂ノ諸君ニ問ハン諸君ハ今ノ時ニ當テ体面ヲ重シトスル乎將タ実益ヲ重シトスル乎今偶然之ヲ見レハ体面ノ重キカ如シ然レトモ是レ理ヲ究メサルノ弊ナリ一國ノ体面素ヨリ輕キニアラス其事甚タ重シ然レトモ國民ノ実益ヲ併セテ共ニ之ヲ全フスルヲ得サルノ際ニ當テハ余ハ寧ロ体面ヲ忍ンテ其實益ヲ收メントス抑モ地租ノ輕カラスシテ我カ生産力ヲ妨クルノ憂アルハ滿天下ノ人共ニ知ル所ナリ而シテ之ヲ輕減シテ其宜キヲ得セシムルハ今日ノ一大急務ナルカ如シ又不換紙幣ノ制ヲ改革シ硬貨ノ主義ヲ實行シ通商ノ便宜ヲ謀ルハ無論一致シテ共ニ是トスル所ナリ惟フニ此時ニ當テ關稅賦課ノ全權ヲ我政府ノ掌中ニ握リ專ラニ之ヲ上下スルヲ得ハ必ラス適當ノ度ニ於テ關稅ヲ賦課シ為メニ國費ノ一部ヲ補フヲ得以テ地租ヲ減シ紙幣ヲ改革スルノ途ヲ為スヲ得ン其實益ニ於ケル關稅所甚タ大ナリト謂フヘシ夫レ外人ノ治外法權ヲ齎ラシ我カ法律ヲ遵守セス寧ロ之ヲ輕視スルノ狀アルハ我邦体面ノ上ニ在テ吾人ノ甚タ忍ヒサル所ナリ然リト雖モ顧ミテ子細ニ之ヲ看レハ之カ為メ邦人未タ現實ニソノ弊害ヲ蒙リシ者アルヲ聽カス今之ヲ以テ夫ノ生産力ノ現時ニ阻害セラレ通商ノ便利ヲ目下ニ欠キタル者ニ比スレハ自カラ事情ノ緩急ヲ異ニスルカ如シ故ニ吾人ハ体面上実ニ忍フヘカラサルノ治外法權ヲ忍フヘクモ寧ロ実益ノ為メ先ツ關稅賦課ノ全權ヲ復シ我カ富有ノ基ヲ固クシ以テ内治ヲ改良シ以テ國權ヲ張ルノ實力ヲ養ハンヲ冀ヘリ而シテ外人ノ如キモ我カ生産力ノ發達シテ貨物ノ市場ニ盈チ紙幣價格ノ浮沈ヲ安着シテ通商ノ利便アルヲ希フモノナルヘケレハ各國政府ト雖モ又必ラス之ヲ肯ンスルナラン聞クカ如クンハ各國政府ハ法權ノ撤去ヲ拒ムモ甚タ關稅改正ノ事ヲ拒マスト果シテ是レ信ナル乎吾人ハ我カ実益ヲ謀ルノ道途ヲ得タリト謂ツヘシ当局ノ者ハ宜シク其力ヲ此ニ用キ縦ヒ關稅賦課ノ全權ヲ恢復シ得サルモ勉メテ我ニ利アルノ改正ヲ為サルヘカラス然ルニ今當局者ノ為ス所ヲ見ルニ寧ロ為シ易キノ稅權回復ヲ措テ夫ノ為シ難キノ治外法權ヲ撤セシメント欲スルカ如シ果シテ是レ何ノ利便アルニ因ルモノ乎試ニ當局者ニ問ハン

トス治外法權ハ此際ニ当テ全然之ヲ撤セシムルヲ得ル乎聞クカ如クンハ五百円以下ニ相当スル民事刑事ヲ審判スル權ヲ掌ケテ之ヲ我カ法廷ノ手ニ皈セシメンコトヲ謀レリト是レ果シテ信然ノ事ナル乎若シ之ヲ信然ナリトセハ能ク之ヲ以テ治外ノ法權ヲ恢復シタルモノト謂フヘキ乎又若シ此僅少ノ改正ヲ為スニ依テ改約ノ期限ヲ改定シ十年若クハ十五年ノ後ニアラサレハ全然治外ノ法權ヲ撤セシムルコトヲ得サルニ到ルナキヲ得ル乎或ハ此僅少ノ改正ニシテ全然法權ヲ恢復スルノ途ヲ防キ国会開設ノ後数年ヲ経ルニアラサレハ終ニ善良ナル條約ノ改正ヲ為スヲ得サラシムルノ恐アラサル乎若シ實ニ其恐レアリトセハ余ハ此際コノ僅少ノ改正ヲ為サス寧ロ忍ンテ内治ノ改良ヲ謀リ其利器ヲ提ケテ大ニ之ヲ改正スルノ途ヲ速カナラシメンコトヲ望メリ之ヲ要スルニ治外ノ法權ヲ撤セシムルノ事ハ我カ内治ノ改良ヲ尽スニ非ラサレハ吾人遂ニ十分ノ冀望ヲ全フスルヲ得サルカ如シ又タ縦ヒ少シク之ヲ改正スルヲ得ルモ之カ為メ或ハ大ニ之ヲ改正スルノ途ヲ塞クノ恐レアリ況ンヤ此ノ少シク改正スルノ政略ノ如キモ稍々又之ヲ行ヒ難キノ聞ヘアリ然ルヲ当局者ハ何故ニコノ行ヒ難キ体面上ノ事ニ恋々シテ夫ノ行ヒ易キ實益ノ事ニ及ハサル乎惟フニ收税ノ權ヲ復スルノ事未タ容易ナリト謂フヲ得ス然レモ之ヲ以テ治外ノ法權ヲ撤セシムルモノニ比スレハ途ニ易キヲ覺ユルアリ況ンヤ收税ノ權ヲ恢復シテ内治ノ改良ヲ為スハ所謂ル治外法權ヲ撤セシムルノ利器ヲ作ルモノニシテ事理ノ順序宜シク然ルヘキニ於テヲヤ

余ハ又之ヲ道路ニ聞ケリ政府ハ布哇帝國ト對頭ノ條約ヲ結ビ布哇人ノ内地雜居ヲ許サントスト惟フニ是レモ亦信然ナル乎モシ信然ナリトセハコノ條約ニ依テ何等ノ利益ヲ本邦ニ收メントスル乎或ハ曰ク之ヲ以テ對頭訂約ノ凡例ト為シ之ヲ推シテ歐米各國ニ及ホスノ意アリト顧フニ是レ信ナル乎若シ信ナリトセハ果シテ其意望ヲ成就スルヲ得ル乎英米李仏ノ諸國ハ夫ノ叢爾タル布哇帝國ノ凡例ヲ甘受シ直ニ之ニ倣フ乎余ハ甚タ之ヲ疑ハサルヲ得サルナリ且ツ内地ノ雜居ヲ許スノ一事ハ余レ別ニ一論アルモ今ノ時ニ當テ我カ内治ノ改良ヲ全セサルノ間ハ勉メテ外人ノ雜居ヲ抑ヘ異日大

ニ之ヲ開クノ謀ヲ為サ、ルヘカラス惟フニ今布哇人ノ雜居ヲ許スノ一事終ニ外人ノ雜居ヲ許スノ実ヲナスモノニアラサル乎諸君ハ布哇人ノ雜居ヲ以テ唯リ純粹ノ布哇人ノミ雜居スルト思ヘル乎余ハ甚タ恐ル欧米諸國ノ人民タルモノ少ラク籍ヲ布哇ニ移シ以テ内地ノ雜居ヲ為スニ至ランコトヲ内地ノ雜居目下果シテ本邦ニ不利アル乎布哇國人ト雖凡均シク之ヲ許スヲ得サルヘシ然ルヲ今之ヲ許サントス蓋シ大ナル利便アルニ因ルモノ乎余ハ当局者ニ向テ其利便ノアル所ヲ聞ント欲スルナリ之ヲ要スルニ内地ノ雜居ヲ許サ、ルノ一事ハ他日大ニ之ヲ許スノ予備ニシテ我帝國獨立ノ基ヲ堅クスル為メ少ラク之ヲ改ムルヲ得サルモノナレハ今ノ時ニ當テ之ヲ許スノ実ヲ為スモノハ果シテ我ニ利便アル乎余ハ私ニ之ヲ疑ハサルヲ得サルナリ之ヲ要スルニ我邦ノ西洋諸國ニ對スル外交ノ政略ハ今三ツノ要点アリ曰ク各國各自ノ條約ヲ結ヒ其共同ノ條約ヲ結フ勿レ曰ク先ツ為シ易キノ收稅權ヲ回復セヨ為シ難キノ治外法權ヲ半部分恢復スルニ止メ後日大ニ之ヲ改約スルノ途ヲ塞ク勿レ曰ク少ラク外人ノ内地雜居ヲ止メ内治ヲ改良スルノ便ヲ謀リ異日大ニ之ヲ開クノ予備ヲ為サシメヨ是レ比ノ三ツノ要点實ニ我邦外交ノ格言ト謂ツヘシ

上來ハ是レ今日我邦ノ西洋ニ對スル外交政略ノ要ヲ論セリ今ヤ又論述ノ方向ヲ轉シ其東洋ニ對スル政略ヲ言ハンニ一言ノ以テ之ヲ蔽フアリ曰ク支那ニ与フルニ疑ヲ解クノ便ヲ以テセヨ朝鮮ニ与フルニ怨ヲ散スルノ便ヲ以テセヨ西洋諸國ヲシテ東洋ノ外交ニ干涉セシムル勿レ是ナリ諸君試ニ世界ノ地圖ヲ披テ之ヲ見ヨ紅海以東獨立國ノ體面ヲ全フスルモノ蓋シ若干國アル乎印度ハ既ニ亡ヒテ英國ノ有ニ皈シ安南モ亦タ疲シテ仏ニ入り漠々タル亜細亞大陸ノ間能ク其獨立ノ體面ヲ全フシ自國ノ旗章ヲ建ツルモノ唯タ僅ニ我邦ト支那トノミアルニアラスヤ而シテ東洋ノ間ニ在テ文明ノ率先ト為リ夫ノ改進ノ治理ニ從フモノハ實ニ我邦ニ非ラスシテ唯リ我邦ノ位地甚タ重シト謂ツヘシ然ルニ從來日清ノ間動モスレハ互ニ相輕シ日韓ノ間又タ未タ積怨ノ解ケサルアリ今ニシテ之ヲ解キ今ニシテ之ヲ散スルノ謀ヲ為サスンハ歲月ノ久シキ疑ハ愈々疑テ爭ヲ為シ怨ミハ愈々積ンテ戰ヲ為スニ至ラン惟フニ是レ東洋ノ大局ニ利便ナル乎蓋シ然ラ



サルヘシ今ヤ我東洋ハ西洋諸国ト交際ヲ開キ強国土壤ヲ接シテ腕ヲ垂ル、アリ富国海城ヲ浮ヘテ眼ヲ注クアリソノ勢ノ迫切スル決シテ百年以前ノ東洋ニ非ラサルナリ惟フニ比間ニ当テ東洋人ノ処スル所最モ易カラス而シテ我邦ハ既ニ東洋文明ノ先導タリソノ此ノ間ニ処スル又一層ノ難キヲ覺ヘタリ然レトモ我邦既ニ東洋文明ノ先導タリ比際焉ソノ其難キヲ避ケ以テ東洋ノ大局ヲ誤マルヲ得ンヤ而シテ我邦ノ此際ニ所スル唯宜シク支那ノ疑ヲ解キ韓人ノ怨ヲ散スヘキノミ顧フニ政府ハコノ東洋ノ大勢ヲ觀察シテ此際ニ処セシモノアル乎穴戸公使北京ヲ去テ以来欽差天津ニ起カス近日ニ及ンテ始メテ榎本公使ヲ派遣セシハ果シテ是レ日清ノ交誼ヲ厚フスルニ利益アル乎將タ米韓ノ支那ニ依テ条約ヲ結ヒ本邦ハ嘗テ与リ知ラサリシハ果シテ日韓ノ關係ヲ強クセシモノト謂フヘキ乎朝鮮ノ暴徒我カ公使館ヲ襲ヒ公使万死ヲ出テ、一葉ノ孤舟ヲ從ヘ洋中ニ遁レ僅ニ英國ノ艦舟ニ扶持セラレ本邦ニ歸リタルカ如キ是レ韓人ノ怨ミ未タ解ケサルノ証ニ非ラサル乎馬建志丁汝昌兵卒ヲ率テ漢陽府ニ入り將サニ日韓ノ談判ニ干涉セントセシカ如キ是レ清人ノ疑ヒ未タ散セサルノ証ニ非ラサル乎余ハ政府ノ深ク玆ニ注意シテ東洋ノ大局ヲ誤マルコト勿ランヲ冀ヘリ今ヤ幸ニシテ我天皇ノ威望ト我國民ノ勢力トニ依テ朝韓ノ局ヲ結ヒシト雖モ（世人ハ韓事終局ノ功ヲ以テ花房氏ニ皈スト雖モ余ハ勢ヒ之ヲ我天皇ノ威望ト我國民ノ勢力トニ皈セサルヲ得ス顧フニ天皇ノ威望ト國民ノ勢力アルニアラサレハ千ノ花房氏アルモ終ニ其局ヲ結フ能ハサルヘケレハナリ）事ノ玆ニ至リシハ決シテ東洋大局ノ利益ニ非ラサルナリ而シテ其後ヲ善クスルノ責ハ本邦實ニ之ヲ任スヘキカ如シ顧フニ我日本人ハ五十万ノ償金ヲ貧弱ナル朝韓ニ課シ自カラ慊シトスル乎余ハ我肉ヲ割テ自カラ之ヲ食フノ感ナキ能ハサルナリ況ンヤ未タ其戰端ヲ開カスシテ之レカ局ヲ結ヒタルハ五十万ノ償金ヲ課スルモ或ハ説ナシト謂フヘカラス然レモ今ヤ既ニ業ニ之ヲ收ムルヲ為セリ余今敢テ其得失ヲ追論スルヲ欲セハ但タ夫ノ償金ヲ使用スルノ方法ニ至テハ余ハ多少ノ冀望ナキヲ得ス余ハ切ニ望ム我政府ハ此償金ノ使用ヲ公明正大ニシ之ヲ韓人ノ怨ヲ解キ清人ノ疑ヲ去ルニ足ルヘキモノニ用ヒ以テ禍ヲ轉シテ福トナサンコトヲ惟フニ是レ他ナシ唯タ



宜シク此五十万ノ金円ヲ費シ之ヲ朝鮮ノ開花ヲ助クルニ足ルヘキ事業ニ用ユヘキノミ諸君ノ了知セラル、如ク朝鮮未  
 タ郵便ノ設ケアラス朝鮮未タ電信ノ設ケアラス灯台ノ築クヘキモノ諸港ノ浚フヘキモノ蓋シ許多ナラン是ヲ以テ余ハ  
 コノ五十万金ヲ収メテ之ヲ我カ国庫ニ入レス直ニ之ヲ朝鮮政府ニ与ヘ之ヲ以テ夫ノ数者ヲ設造セシメ以テ朝鮮ノ進歩  
 ヲ助ケンコヲ望メリ願フニ若シ能ク之ヲ行フヲセハ我名正フシテ韓人稍々奮怨ヲ散シ清人モ亦タ從テ其無益ノ疑ヲ解  
 クニ至ラン是レ所謂ル一挙三得ノ事ニシテ東洋ノ大局ニ利便アル余決シテ之ヲ疑ハス若シ然ラスシテ償金ヲ収メテ自  
 カラ快トシテ我レ韓人ヲ威服セリ我カ威是レ強シト謂フニ至ラハ韓人ハ愈々怨テ清人ハ愈々疑ヒ其極ヤ東洋ノ大局ヲ  
 誤マルニ至ラン是レ豈ニ吾人ノ賀スヘキ事ナラン哉且ツ朝鮮ハ果シテ独立国ナル乎將タ清国ノ所屬ナル乎近時ノ一問  
 タリ惟フニ当局者ハ如何カ之ヲ処セントスル乎論スル者間々或ハ西洋ノ各国ヲ招同シテ其關係ヲ正サンコヲ冀ヒ現ニ  
 英國ノ如キハ之レニ干涉セント欲スルノ情アリ惟フニ是レ東洋ノ利便ナル乎蓋シ然ラス既ニ論スルカ如ク紅海以東独  
 立ノ体面ヲ全フスルモノ唯タ僅ニ日清アル耳而シテ各国共同ノ干涉ヲ受ケ遂ニ其大勢ヲ誤マリシハ土児格ノ既ニ經驗  
 セシ所ナラスヤ然ルヲ今マ各国ヲ招同シテ東洋諸国ノ自決スヘキ事問ニ干涉セシメ夫ノ僅ニ殘レル東洋ノ独立国ヲシ  
 テ既ニ覆ヘリタル土児格ノ凡例ニ倣ハシメントス蓋シ又タ歎スヘキナリ今余ヲ以テ之ヲ見レハ日清韓ハ共同シテ其関  
 係ヲ正シ朝鮮ヲ以テ独立国ト為スモ之ヲ以テ半独立国ト為スモ一ニ皆ナ東洋ノ大局ニ利便アルノ要ニ於テ之ヲ決スヘ  
 シ又タ必スシモ小節ニ拘泥シテ東洋ノ大局ヲ誤マルヘカラサルナリ惟フニ東洋ノ大局ヲ誤マラスシテ亜細亞ノ盛ナル  
 ハ独リ東洋ノ幸福ナルニ止マラス洋外交際ノ諸国モ亦共ニ其利ヲ受クヘキモノナレハ諸国ト雖モ亦必ス大ニ此挙ヲ賛  
 成スルナラム

之ヲ要スルニ外交ノ事ハ一國利害ノ係ル所ニシテ一旦之ヲ誤マレハ其禍一時ニ止マラス永ク延テ万世子孫ニ及フヘキ  
 モノナレハ之ヲ所スル決シテ一時投機ノ小智ヲ以テスヘカラス必ラスヤ其大勢ノ赴ク所ヲ察シ所謂ル大智謀ヲ以テ之

ヲ処スヘキノミ知ラス今ノ当局者ハ能ク大智謀ヲ以テ夫ノ外交ヲ処スルアル乎余ハ諸君ト共ニ之ヲ觀察スルアラント  
欲スルナリ

小野 梓 公演

## 要改条目類從（附録二）

### ○ 引

各国所訂ノ条約ハ載セテ条約類纂ニ在リ既ニ世ニ行ハルト雖凡之カ改正ヲ要スル条目ニ至テハ各所ニ散在シテ頗ル  
発見ニ便ナラス故ニ今其条目ヲ類從シ以テ本論ヲ読ム者ノ参看ニ供ス蓋シ少補アランコトヲ冀フテナリ

明治十七年五月盡日

纂者

識

## 要改条目類從

小野 梓 纂輯

### ○ 治外法権ノ条目

魯細亞下田条約（安政元年甲寅十二月二日）

第八条 魯細亞人ノ日本国ニ在ル日本人ノ魯細亞ニ在ル之ヲ待ツゝ緩優ニシテ禁錮スル事ナシ然レ共若シ法ヲ犯ス  
者アラハ之ヲ取押ヘ処置スルニ各其本国ノ法度ヲ以テスヘシ

和蘭長崎条約（安政二年乙卯十二月三日）

第二条 和蘭人日本ノ掟ヲ犯シ候ハ、出島在留高官ノ者ヘ為知可申候左候ヘハ同人ヲシテ和蘭政府ヨリ其国法通り戒メ可申事

米国下田規定書（安政四年丁巳五月二六日）

第四条 日本人亜米利加人ニ対シ法ヲ犯ス時ハ日本ノ法度ヲ以テ日本司人罰シ亜米利加人日本人ヘ対シ法ヲ犯ス時ハ亜米利加ノ法度ヲ以テ総領事或ハ領事之ヲ罰スヘシ

和蘭追加条約（安政四年丁巳八月二九日）

第三十六条 若シ来住スル外国人ノ間喧嘩爭論差起リ候節ハ日本政府ノ厄分無之様取斗可申事

第三十七条 若シ和蘭人ト日本人ノ間ニ於テ爭鬭ヲ起シ創傷ヲ蒙リ或ハ盜賊火付致候節ハ両国役人ニテ取斗ヒ精々正当ニ可処置事

米国江戸条約（安政五年戊午六月十九日）

第六条 日本人ニ対シ法ヲ犯セル亜米利加人ハ亜米利加領事裁判所ニテ吟味ノ上亜米利加ノ法度ヲ以テ罰スヘシ  
米利加人ヘ対シ法ヲ犯シタル日本人ハ日本役人糺ノ上日本ノ法度ヲ以テ罰スヘシ  
日本奉行所亜米利加領事裁判所ハ双方商人通債等ノ事ヲモ公ケニ取扱フヘシ

和蘭江戸条約（安政五年戊午七月十日）

第五条（米国江戸条約第六条ニ同ジ）

魯細亜江戸条約（安政五年戊午七月十一日）

第十四条 双方国人ノ爭論アル時ハ両国ノ役人吟味ヲ遂ケ日本人罪アル時ハ日本役所ニテ之ヲ罰シ魯細亜人罪アル

時ハ其国ノ領事ヨリ之ヲ罰スル事都テ下田条約ニ定メシ如シ

英吉利江戸条約（安政五年戊午七月十八日）

第四条 日本ニ在ル貌利太尼亞臣民ノ間ニ起ル争ハ貌利太尼亞司人ノ裁判タルヘシ

第五条 貌利太尼亞臣民ニ対シ惡事ヲ為セル日本人ハ日本司人ニテ糺シ日本法度ニ随テ罪スヘシ日本人或ハ外国ノ臣民ニ対シ惡事ヲ為セル貌利太尼亞臣民ハ領事或ハ其他ノ官人ニテ糺シ貌利太尼亞ノ法度ニ随テ罪スヘシ裁斷ハ双方ニ於テ偏頗ナカルヘシ

仏蘭西江戸条約（安政五年戊午九月三日）

第五条（英吉利江戸条約第四条ニ同シ）

第六条（英吉利江戸条約第五条ニ同シ）

葡萄牙江戸条約（万延元年庚申六月十七日）

第四条（英吉利江戸条約第四条ニ同シ）

第五条（同第五条ニ同シ）

孛漏生江戸条約（万延元年庚申十二月十四日）

第五条 日本ニ在ル孛漏生人ノ間ニ起ル争論ハ孛漏生司人ノ裁斷タルヘシ若シ孛漏生人日本人ニ対シ訴訟或ハ異論アル時ハ日本官府ニ於テ此事件ヲ裁斷スヘシ前同様日本人孛漏生人ニ対シ訴訟或ハ異端アル時ハ孛漏生領事庁ニ於テ此事件ヲ裁斷スヘシ

第六条（英吉利江戸条約第五条ニ同シ）

瑞西江戸条約（文久三年癸亥十二月二十九日）

第五条 (享漏生江戸条約第五条ニ同シ)

第六条 (英吉利江戸条約第五条ニ同シ)

白耳義江戸条約 (慶応二年丙寅六月二二日)

第五条 (享漏生江戸条約第五条ニ同シ)

第六条 (英吉利江戸条約第五条ニ同シ)

伊太利江戸条約 (慶応二年丙寅七月十六日)

第五条 日本ニ在ル伊太利人ノ間ニ一身又ハ所持ノ品ニ付テノ争論ハ都テ伊太利司人ノ裁断タルヘシ

第六条 (英吉利江戸条約第五条ニ同シ)

丁抹江戸条約 (慶応二年丙寅十二月七日)

第五条 (伊太利江戸条約第五条ニ同シ)

第六条 (英吉利江戸条約第五条ニ同シ)

瑞典那耳回神奈川条約 (明治元年戊辰九月二七日)

第五条 (伊太利江戸条約第五条ニ同シ)

第六条 (英吉利江戸条約第五条ニ同シ)

西班牙神奈川条約 (明治元年戊辰九月二八日)

第五条 (伊太利江戸条約第五条ニ同シ)

第七条 (英吉利江戸条約第五条ニ同シ)

独逸北部聯邦神奈川条約 (明治二年己巳五月十日)

第五條 (伊太利江戸條約第五條ニ同シ)

第六條 (英吉利江戸條約第五條ニ同シ)

奧斯利東京條約 (明治二年己巳九月十四日)

第五條 (伊太利江戸條約第五條ニ同シ)

第六條 (英吉利江戸條約第五條ニ同シ)

○關稅ノ收納ヲ同約スル條目

和蘭追加條約

第六條 公売ニテ売リタル品物ニテモ又相對ニテ売タル品物ニテモ三分五厘ノ運上ヲ差出可申事

魯細亞長崎追加條約 (安政四年丁巳九月七日)

第九條 公売或ハ私売ニテ売タル荷物ノ運上ハ新ニ運上規則ヲ取極候迄ハ是迄ノ通り三分五厘ノ運上ヲ相収可申事

米國江戸條約

第四條 總テ國地ニ輸入輸出ノ品々別冊通商條規ヲ指スノ通日本役所ヘ運上ヲ納ムヘシ

和蘭江戸條約

第三條 (米國江戸條約第四條ニ同シ)

魯細亞江戸條約

第十條 (同上)

英吉利江戸訂約貿易章程 (安政五年戊午七月十八日)

第七則 總テ日本開港場所ヘ陸揚スル物品ニハ左ノ運上目録ニ從ヒ其地ノ運上役所ニ租稅ヲ納ムヘシ



仏蘭西江戸訂約貿易章程（安政五年戊午九月三日）

第七則（英吉利貿易章程第七則ニ同シ）

葡萄牙江戸訂約貿易章程（万延元年庚申六月十七日）

第七則（同上）

孛漏生江戸訂約貿易章程（万延元年庚申十二月十四日）

第七則（同上）

瑞西江戸訂約貿易定則（文久三年癸亥十二月二十九日）

第五則（同上）

白耳義江戸訂約貿易定則（慶応二年丙寅六月二一日）

第七則 輸入輸出ノ荷物ハ次ノ税目ニ從ヒ運上ヲ納ムヘシ

伊太利江戸訂約附加約書（慶応二年丙寅七月十六日）

第一条 双方ノ全権両政府ノ名代トシテ左ノ通り約書ヲ議定シ此約書ニ添タル運上目録ヲ採用シ両政府ノ臣民皆堅

ク之ヲ遵奉スヘキ事トセリ

丁抹江戸副条約（慶応二年丙寅十二月七日）

第一条（同上）

魯細亜新定約書（慶応三年丁卯十一月二八日）

第二条 新目録（輸出輸入運上目録）ハ日本安政五戊午年取結タル条約ニ載スル如ク堅ク之ヲ遵奉スヘシ

瑞典那耳回神奈川条約

第十九条 輸出入ノ運上ハ之ニ添タル税則ニ基キ日本政府ニ納ムヘシ右税則ハ千八百七十一年第七月一日ニ至リ再  
ヒ改ムヘシ

独逸北部聯邦神奈川訂約貿易定則（明治二年己巳正月十日）

第七則 総テ日本ニ陸揚シタル品々ニハ次ノ運上目録ニ從ヒ日本政府ヘ運上ヲ払フヘシ

奧斯利東京訂約貿易定則（明治二年己巳九月十四日）

第七則 総テ日本ニ陸揚シタル品々并ニ輸出セント欲スル品々ハ此書ニ添フル次ノ運上目録ニ從ヒ日本政府ヘ運上  
ヲ払フヘシ

○通商条規ヲ修好条規ニ連接スル条目

米国江戸条約

第十一条 此条約ニ添タル商法ノ別冊ハ本書同様双方ノ臣民互ニ遵守スヘシ

和蘭江戸条約

第九条（同上）

魯細亜江戸条約

第九条（同上）

英吉利江戸条約

第二十条 此条約ニ添タル商法ノ別冊ハ本書同様双方ノ臣民互ニ遵守スヘシ日本貴官又ハ委任ノ役人ト日本ニ来レ

ル貌利太尼亞国ノ外交官ト此条約ノ規則并別冊ノ条ヲ全備セシムル為メノ規律等談判ヲ遂クヘシ

仏蘭西江戸条約

第九条 此度定メタル商法ハ条約ノ通守ルヘシ此条約并ニ交易ノ法ヲ充分ニ取行フ為ノ規律ヲ全備セント要セハ仏

蘭西公使ト日本高官ト議定スヘシ

葡萄牙江戸条約

第二十条 (英吉利江戸条約第二十条ニ同シ)

李漏生江戸条約

第十条 此条約及ヒ税則ニテ交易ノ規律ヲ全備スルモノト見ルヘシ日本ニ在ル李漏生国ノ外交官ハ日本政府ヨリ委任ノ役人ト相接シ此条約ニ付属スル税則規律ノ趣意ヲ施行スル為メ交易ニ開クヘキ諸港緊要至当ノ規律等談判ヲ遂クヘシ

瑞士江戸条約

第十条 (李漏生江戸条約第十条ニ同シ)

白耳義江戸条約

第十条 (同上)

伊太利江戸条約

第十条 此条約ニ添タル税則約書ハ条約ノ一部トシテ双方共ニ堅ク相守ルヘシ  
丁抹江戸条約

第十条 (伊太利江戸条約第十条ニ同シ)

瑞典那耳回神奈川条約

第十条 (同上)

西班牙神奈川条約

第二十条 (同上)

独逸北部聯邦条約

第十条 (同上)

奧斯利東京条約

第十四条 (同上)

○特典均霑ノ条目

米國神奈川条約 (嘉永七年甲寅三月三日)

第九条 日本政府外国人へ当節亜米利加人へ不差許候廉相許シ候節ハ亜米利加人へモ同様差免可申右ニ付談判猶予不致候事

英吉利長崎約定 (安政元年甲寅八月二十三日)

第五条 他ノ外国ノ船或ハ人民ノ為ニ今開キタル港或ハ此後開クヘキ港ニ於テハ英國ノ船并ニ人民モ其港ニ入津シ且最モ恩恵ヲ加ヘラル、國ニ与ヘラル、利益ハ同様之ヲ受クヘシ然レモ日本ト先前ヨリ交際ヲ存スル和蘭并ニ支那ニ与フル利益ハ常ニ此例ニ在ラサルヘシ

魯細亞下田条約

第九条 兩國近隣ノ故ヲ以テ日本國ニテ向後他國へ許ス所ノ諸件ハ同時ニ魯細亞人ニモ差免スヘシ

和蘭長崎条約

第四条 若シ外ニ日本港津他ノ國民ノ為ニ開ニ相成候ハ、和蘭國へモ直ニ同様ノ免許可有之事

和蘭追加条約

第三十九条 他ノ外国人ニ許サレ候権理ハ直ニ和蘭国ヘモ許サルヘキ事

魯細亜江戸条約

第十六条 此後他国ノ者ニ許容セル廉ハ猶予ナク魯細亜国ヘモ免スヘシ魯細亜国ニ於テノ日本人モ同様タルヘシ

英吉利江戸条約

第二十三条 日本政府ヨリ向後外国ノ政府及臣民ニ許スヘキ殊典アル時ハ貌利太尼亜政府国民ヘモ同様ノ免許アル

ヘシ

仏蘭西江戸条約

第十九条 以後何事ニテモ外国人ヘ免許シタル事ハ仏蘭西政府又ハ仏蘭西人ヘモ同様ニ免許スヘシ

葡萄牙江戸条約

第二十三条 (英吉利江戸条約第二十三条ニ同シ)

李漏生江戸条約

第十条 (同上)

瑞西江戸条約

第十六条 (同上)

白耳義江戸条約

第十九条 (同上)

伊太利江戸条約

第十九条 日本政府ヨリ既ニ外国ノ政府及ヒ臣民ニ許シ又ハ以後何ノ国ナリ共許サントスル殊典ハ伊太利政府及ヒ

臣民ニモ此条約施行ノ日ヨリ同時ノ免許アルヘキヲ方今確定セリ

丁抹江戸条約

第十九条 (同上)

瑞典那耳回神奈川条約

第二十六条 (同上)

西班牙神奈川条約

第二十三条 (同上)

独逸北部聯邦条約

第十九条 (同上)

奧斯利東京条約

第二十条 (同上)